



東京理科大学報

TUS Journal



vol. 188

「寅さん」で有名な葛飾の柴又帝釈天。

物華天宝 正月から時代を考える

私の子ども時代の正月といえば、紅白歌合戦、親族勢ぞろいの新年会、こま回し、たこ揚げ、寅さん、新春かくし芸大会というのが定番でした。40歳以上の方は同じようなものではないでしょうか。振り返ってみれば、大勢が集まって共通の遊び・話題で盛り上がりワイワイガヤガヤとにぎやかに過ごすのが正しい(?)正月でしたし、ある意味で日本の大衆文化だったように思います。今と違って、子どもにとっても大人にとっても、正月は思い出に残る特別なイベントでし

た。こういう正月がなくなったのはいつからでしょうか? 何がきっかけだったのでしょうか?

子どもからお年寄りまでが一緒に楽しめる国民歌謡・芸能がなくなり、子どもはテレビゲーム(今は携帯ゲームですね)をするために家に引きこもり、大人は余裕がなく疲れきって寝正月を決め込む……すべてバブル経済が崩壊した1990年代に起こったことのように思います。

正月の伝統行事の多くは江戸時代に始まり定着したそうですので、少なくと

も300年続いた大衆文化が10年で消滅したことになります。時代の流れを人為的に止めることはできませんが、その変化のプロセスがあまりに突然変異的であり、とても興味深く感じています。

次に来る時代の突然変異がどのように起こるのか、何がきっかけになるのか、まったく見当もつきませんが、ぜひ見届けたいと思っています。読者の皆さまは、いかがお考えでしょうか?
(工学部第一部機械工学科 教授 山本 誠)

Headline

- 02 新役員・評議員決定
学長 年頭の言葉
- 03 新学部長・研究科長就任の言葉
- 04 理大祭2012/理密会だより
- 05 葛飾キャンパス潜入レポート/
葛飾Walk!!「葛飾・美味な『肉』クルーズ」
- 06 寄付者芳名/Event
- 07 山口東京理科大学ニュース/
諏訪東京理科大学ニュース
- 08 国家公務員採用総合職試験合格を祝う会開催/
シンガポール理密会設立

新理事長に中根滋氏 学校法人東京理科大学 新役員・評議員

学校法人東京理科大学の第7代理事長に、平成24年12月28日付で中根滋氏が就任しました。今回の改選は学校法人東京理科大学の役員および評議員の任期満了に伴い、寄附行為および同施行細則に基づき行われたもので、新任者の任期は平成24年12月28日から平成28年12月27日までの4年間です。新役員および評議員は右のとおり。(五十音順)



役員

理事長
中根 滋

常務理事

池北 雅彦(筆頭常務)

横倉 隆／吉本 成香

理事

赤上 好／安部 良／岡村 総一郎

河村 洋／塚本 恒世／友岡 康弘

半谷 精一郎／平川 保博／藤嶋 昭

村田 雄司／本山 和夫／森野 義男

評議員

赤上 好／秋山 仁／安部 良／池北 雅彦／石神 一郎／伊丹 敬之／井手本 康

井口 眞／浦川 隆文／大竹 好文／大野 紀夫／岡村 総一郎／岡本 公爾／梶原 巡

上村 直樹／唐澤 範行／河合 武司／河村 洋／狐塚 章／清岡 智／倉淵 隆

黒住 忠夫／小林 秀至／小林 宏／今春 徹／酒井 陽太／坂本 正典／佐々木 健夫

椎木 茂／篠原 菊紀／白石 安男／杉山 博司／高頭 孝毅／立川 光威／谷内 正建

田沼 靖一／塚本 恒世／寺脇 康文／富岡 康夫／富澤 貞男／富田 英雄／友岡 康弘

中根 滋／長野 明／中村 洋一／林 良祐／半谷 精一郎／兵庫 明／平川 保博

深澤 知明／藤井 志郎／藤嶋 昭／筆保 洋一郎／古矢 元一／牧野 公子／増村 清人

松江 英明／丸田 忠雄／三浦 善司／溝口 博／宮川 公治／宮村 一夫／本山 和夫

森野 義男／安盛 敦雄／矢部 博／山田 義幸／山本 幸央／横倉 隆／吉本 成香

渡辺 一之／渡辺 賢二／渡辺 通春

新理事長 就任のあいさつ

わたしは東京理科大学理工学部の一期生として学び、卒業してからはIT・ICT業界で働いてきました。21世紀になってから企業の再生・新規事業開発を行うプロの経営者として仕事をしています。外資・グローバル・ソフトウェアという環境で競争してきました。

本学で学んだ理、「努力はやがて報われる」、「物

事は科学的にアプローチすれば解決策が見えてくる」、そして東京理科大学初代学長・本多光太郎先生の「今が大切」という言葉。昨日は変えられない。明日は変えられる。今日、明日を変える努力をする。みんなで、オープンに。だから今がとても大切。微力ながら、栄光ある本学の更なる発展に貢献できれば、わが人生最大の喜びと思っています。

中根理事長の略歴

昭和24年2月2日生まれ。電気工学士。同46年3月東京理科大学理工学部電気工学科卒。同年4月日本アイビーエム株式会社に勤務。社長補佐、営業本部長などを歴任し、平成5年1月SAPジャパン株式会社代表取締役社長兼CEOに就任。同13年3月i2 Technologies ジャパン代表取締役社長兼CEO、同16年6月パワードコム株式会社代表取締役社長兼CEOなどを経て、同18年1月からUWIN株式会社代表取締役社長兼CEO。同22年9月からiDeep ソリューションズ株式会社代表取締役社長兼CEO。

2013年頭の言葉

新キャンパス誕生とともに 一層の教育充実を目指す

本学にとって創立132年を迎える本年は記念すべき年になります。葛飾キャンパスが誕生し、神楽坂、野田、そして葛飾の3大キャンパス体制となります。4月1日の開設に向け、建築物も最後の仕上げに掛かっています。

本学においては関門科目を通過した学生しか進級させないという実力主義のおかげで、基礎学力を身に付けた学生を社会に送り出すことができており、その結果として卒業生は各方面で大活躍しています。

学生の就職率も高く、また国家公務員総合職(旧I種)の合格者、中学や高校の数学・理科の教員となる者も増加しています。昨春には初の6年制薬学部卒業生が出ましたが、現役の卒業生全員が薬剤師国家試験に合格するという快挙もありました。

つい先日にも授業を受けている学生の様子を見るため、いくつかの教室に入りしばらく聴講してみました。夕方6時からの理学部第二部や工学部第二部の授業にも出てみましたが、どの教室もほぼ満員で、学生は前の方から座り教員は十分に準備を整えて授業に臨んでいました。

新しい年、まずは次の二つのことを実施していきたいと思っています。

一つ目が教養教育の充実です。本学では専門教育は十分効果的に行われていることはよく知られていますが、教育者、研究者、技術者として活躍していくためには豊かな教養を身に付けることも大切です。そこで、学部だけでなく、大学院まで教養教育を充実させていきたいと思っています。関係者とも十分検討を行い、具体的に取り組んでいきます。

もう一つが語学教育。特に実用英語をしっかりと身に付けさせるためのカリキュラムの見直しなどを行うことは、一層のグローバル化、国際化を進める上では、必須のことだと思っています。東京理科大学の持つ研究力は、教員や大学院生諸君の活発な活動で世に認められてきています。科学研究費などの外部資金の獲得は、年々増加していますし、発表論文数も世に誇ることができるほど多くなっています。

将来の日本のことを考えると、科学技術立国でしか世界に太刀打ちできません。若年層で理科離れがおこっ



学長

ているといわれていますが、幸いなことに、わが理科大には科学教育に熱心な教員がたくさんいます。高校生の科学オリンピックの中心としての働きがなされつつあることなどは、大変うれしく思っています。

理科大が誇ることの中でも、特筆すべきことは卒業生の方々の「理窓会」の充実ぶりです。毎年10月末ごろに行われるホームカミングデーは理窓会の方々によって計画・実施されており、素晴らしい各種の企画が大人気を獲得しております。理窓会の中には理窓ビジネス同友会、理窓教育会など各種の会があり、素晴らしい働きをされています。今後も理窓会のますますのご発展を祈念申し上げているところで。

また、父母の方々の組織である「こうよう会」も充実しています。各県支部の集まり以外にも、各地区での合同集会もありますし、大学の教育・研究活動への支援もいたしております。

新しい年も東京理科大学が一層の発展をしていく年になります。学長としても全力を挙げていきますので、よろしくお願い申し上げます。

新学部長・研究科長 就任の言葉

(平成24年10月1日付就任)

歴史ある学部の 一層の発展を目指して

薬学部 学部長・薬学研究科 研究科長
牧野 公子



夜間学部らしい しなやかで力強い教育を

工学部第二部 学部長
河野 守



新しい創造につながる 「想像力」と「決断力」を 持った学生を 育む場でありたい

理工学部 学部長
北村 春幸



環境・時代の変化に合わせた カリキュラムを提示

経営学部 学部長・経営学研究科 研究科長
高橋 悟



不確実な時代を 科学の力で切り拓く

理工学研究科 研究科長
森 俊介



東京理科大学薬学部は、昭和35年に創設以来、50年以上の歴史をもつ学部です。平成15年に神楽坂キャンパスから野田キャンパスへ移転し、今年で11年目を迎えています。この移転に伴って、薬学部は既存・新設の研究センターと連携し、創薬情報科学(ファーマコインフォマティクス)の一大拠点として、生まれ変わりました。そして、平成18年4月に、薬学部は、従来の薬学科と製薬学科から、6年制の薬学科と4年制の生命創薬科学科の2学科に再編成され、新しい薬学部としてスタートしまし

た。薬学科では薬剤師国家資格を取得し研究心を持った医療人教育を、生命創薬科学科では創薬技術者・研究者養成を、それぞれ主な目的としています。平成24年3月に6年制薬学科の第1期生が卒業し、生命創薬科学科を卒業後、薬科学専攻の修士課程に進学した第1期生が修了しました。両学科が医療、創薬を意識して共存しているのが本学薬学部の特長です。こうした中で、教員一同、薬学部の発展のために努力を続ける所存です。

夜間学部である工学部第二部(建築学科・電気工学科・経営工学科)には、有職の学生、一度社会を経験した後に新たな分野にチャレンジしている学生など多様な学生が、まさに実務に有効な知識・経験を得ようとして在学しています。このような特色は、ややもすると実務にのみ目を向けた小手先の技術獲得を目指す傾向になりがちです。しかしながら、大学教育は決してそれだけではないと考えています。社会で行われているさまざまな技術業務は、基礎的学問体系の基盤の上に成立しているため、大卒技術者はそのような基礎的学問を体幹に備え、器用な手・足(知

識や経験)を使うことができる必要があるでしょう。理科大の実力主義とは、このような卒業生に値する資質を表現したのではないでしょう。か。来年度から、本学部は新しい施設(葛飾)と都会の利便性(神楽坂)の良さを融合した教育を行うこととなります。そのため、現在、教育体制の見直し・改善を継続的に行っています。多様な学生の特質に対応した教育プログラム、学生支援体制整備を推進し、夜間学部らしいしなやかで力強い学部となるようにしたいと考えています。

平成23年3月の東日本大震災の被災から、安全に対する検証や対応策が不十分であったことが後悔されます。近い将来に想定される東海、東南海、南海地震などの巨大地震に対しては、建物の被害を想定する新しい試みによって事前に対策を講じようとしています。それは、地震により引き起こされる事象とそれらの事象への対処法を、「想像力」を発揮してシナリオに描き、課題を洗い出すとともに事前の対策案を練り上げて社会へ啓発する試みです。未経験の災害に備えた対応策の実施にあたっては、建物ごとに定めた要求性能を満たす具体的な対応策を経済性などの

バランスを取りながら決める「決断力」が求められています。経験したことのない先の見えない時代の研究者や技術者には、事象を想像して課題を見つけ出しそれを解決する「想像力」と、それを具体的に実施する際の「決断力」が必要になります。学生たちには、すぐに役立つ知識や技術の習得ではなく、研究課題への取り組みの中から「想像力」と「決断力」を育む訓練を積ませようとしています。学生たちが責任を担うであろう10年後20年後に生きてくるものと信じ、新しい創造につながる「想像力」と「決断力」を持った学生を育てていきたいと考えています。

経営学部は、平成5年に、「数量的・計量的な解析を重視し、経営活動の問題を発見し関連データを収集、それを数理的手法や情報処理技術を活用して分析し、問題を合理的に解決する科学的認識に基づく経営研究を教育・研究する」という新しい理念のもとに創設されました。以来、「文理融合の理念」は堅持しつつも、環境、時代の変化に合わせたカリキュラムを提示しています。近年はキャリアを形成していくためのキャリア・デザイン教育プログラ

ム、グローバル社会で活躍する人材育成を目指した豊富な英語教育プログラム、短期・中期の英語研修留学プログラムなどの充実も図っております。また、平成28年4月には、2学年以上ですが、神楽坂キャンパスへ移転することを計画しており、さらに質の高い教育・研究を行い、その成果を発信していくことで、経営学部に対する評価を高めていきたいと考えています。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

若者の理工学離れが懸念され、また、平成23年3月の東日本大震災とそれに続く原子力発電所事故の後には、専門家への信頼が失われたと盛んにいわれました。今も科学的におかしな言説が盛んにネット上を飛び交い、不安をあおり続けているようにみえます。けれども、一方で、科学知識に基づいた冷静な議論が求められている様子もみえてきました。科学とは、身の回りにある未知の分野

へのチャレンジです。そのため「分かっていないこと＝不確実」は常に残ります。しかしそれは「何も分かっていないこと」とは大きく違います。この「確かな世界の不確実なこと」と「不確実な中の確かなこと」をきちんと把握する力が、玉石混交の情報が飛び交う現代に求められているのではないのでしょうか。研究と教育の現場から、そのような学生を一人でも多く世の中に送り出したいと願います。

悼

関根 慶太郎 本学名誉教授・元教授 理工学部電気電子情報工学科 平成24年10月15日逝去されました。76歳。
林 健児 本学名誉教授・元教授 理学部第一部応用数学科(現数理情報科学科) 平成24年12月11日逝去されました。87歳。
柴田 敏男 本学名誉教授・元教授 理学部第一部数学科 平成24年12月12日逝去されました。77歳。



Prize

受賞一覧

東京理科大学学生の各種論文・研究発表等の受賞一覧(2012年08月～2012年9月)

受賞者(所属・学年は受賞または応募時)	受賞名	大会・学会名	受賞テーマ等	受賞日
友田 圭祐	理工研・電気工・修1	優秀発表賞	平成24年電気学会産業応用部門大会	水素化ホウ素ナトリウムの加水分解反応における水素性精読度改善効果の実験的検証
八木 智華子	理工研・応生・修1			
野口 祐平	理工研・応生・修1	ベストイメージ・カルツァイス賞	第21回日本バイオイメージング学会学術集会	イネにおけるオートファジー動態の可視化と生体機能の解析
小谷野 智子	理工研・応生・修2			
花俣 崇	理工研・応生・博3			
吉川 慧子	理工研・数情・修2	優秀ポスター賞	JSIAM2012年会	Scilabにおける疎行列向け高精度演算の実装と評価
齊藤 翼	理工研・数情・博2	優秀ポスター賞	平成24年電気学会C部門大会	複素係数を有する可変FIRフィルタの一設計法
吉田 嵩	基礎工研・応心・修2	優秀ポスター賞	PT-BMES 2012	In-situ Infrared Spectroscopic Study of Hydrogen Bonds in Supercritical Water and Methanol
宇部 卓司	基礎工研・材料工・博1	優秀ポスター発表者賞	第45回照明学会全国大会	自然の光環境を反映させるブラインド・照明制御に関する研究-設定照度変更による照明消費電力と色温度の検討~
泉 克樹	理工研・建築・修1	最優秀発表賞	日本機械学会年次大会機学潤滑設計部門卒業研究コンテスト	硬質材料に対するハロゲンフッ素イオン液体のトライボ特性に関する研究
近藤 ゆりこ	理工研・機械工・修1	優秀賞		円すいころ軸受の予圧ばねに関する基礎研究
畑田 智哉	理工研・機械工・修1	優秀学生発表賞(ポスター賞)	光化学討論会	水分解およびCO ₂ 還元反応に活性なKCaSrTa ₂ O ₁₀ 光触媒に対する遷移金属ドーピング効果
和藤 大鑑	総化研・総化・博1	ポスター賞	日本植物形態学会第24回大会	葉の柵状組織におけるDNA量と細胞体積の解析
片桐 洋平	理工・応生・4			

維持拡充資金(第二期) 寄付者芳名

「維持拡充資金(第二期)」にご賛同いただき、ご寄付をたまわった方々のご芳名を掲載します。

今回は、2012年8月1日～10月31日までにご入金いただいた分です。

ご芳名は区分別・金額別・五十音順ですが、区分で重複する方はいずれか一つに掲載させていただきます。

累計は維持拡充資金(第二期)の寄付額です。

【個人】 (同窓生) ◆金4,500,000円 森野 義男 様 (累計金54,000,000円) ◆金950,000円 岡本 公爾 様 (累計金1,200,000円) ◆金500,000円 近藤 繁久 様 (累計金1,000,000円) ◆金230,000円 葛田 正雄 様 (累計金930,000円) ◆金200,000円 塚本 高之 様 (累計金600,000円) 濱田 堯 様 (累計金700,000円) 山田 義幸 様 (累計金1,100,000円) ◆金100,000円 神島 嘉之 様 (累計金200,000円) 君塚 弘明 様 (累計金300,000円) 慶野 寛 様 (累計金200,000円) 田中 治之 様 濱田 恵子 様 (累計金300,000円) 伏見 正 様 ◆金60,000円 菅原 繁蔵 様 (累計金150,000円) ◆金50,000円 太田 郷史 様	濱田 良 様 (累計金100,000円) 藤沼 史生 様 筆保 洋一郎 様 (累計金30,000円) 寺西 功一 様 (累計金40,000円) 守屋 茂 様 (累計金360,000円) 山口 潔 様 (累計金20,000円) 相原 奎二 様 (累計金40,000円) 菊野 泰治 様 (累計金70,000円) 関 誠 様 中西 秀樹 様 保坂 寿一 様 (累計金30,000円) 三浦 敬敏 様 (累計金40,000円) 森脇 英一 様 与那原 邦夫 様 (累計金100,000円) ◆金15,000円 齋木 保男 様 ◆金10,000円 新野 哲久 様 井原 泰恵 様 (累計金20,000円) 小川 雅之 様 小岩 美恵 様 (累計金42,000円) 鈴木 克巳 様 須田 歌織 様 (累計金40,000円) 辻村 康弘 様 賀土川 克美 様 (累計金20,000円)	妙田 勉 様 (累計金40,000円) 山崎 昭雄 様 (累計金30,000円) 匿名 2 名 (累計金840,000円) 多田 孝次 様 (累計金70,000円) 田中 芳夫 様 (累計金140,000円) 匿名 2 名 (累計金170,000円) ◆金15,000円 加賀谷 典夫 様 (累計金165,000円) 原 泰志 様 (累計金145,000円) 匿名 1 名 石井 匠 様 (累計金20,000円) 匿名 1 名 ◆金5,000円 プレマチャンドラ チンタカ 様 (累計金7,000円) ◆金90,000円 松永 幸大 様 (累計金100,000円)	◆金50,000円 匿名 2 名 ◆金30,000円 宇津 栄三 様 (累計金840,000円) 多田 孝次 様 (累計金70,000円) 田中 芳夫 様 (累計金140,000円) 匿名 2 名 (累計金170,000円) ◆金15,000円 加賀谷 典夫 様 (累計金165,000円) 原 泰志 様 (累計金145,000円) 匿名 1 名 石井 匠 様 (累計金20,000円) 匿名 1 名 ◆金5,000円 プレマチャンドラ チンタカ 様 (累計金7,000円) ◆金90,000円 松永 幸大 様 (累計金100,000円)	【法人】 ◆金1,000,000円 愛知株式会社 東京営業部 様 株式会社清和ビジネス 様 (累計金2,000,000円) 【団体】 ◆金52,748円 2012ホームカミングデー参加者 有志 様 【こうよう会】 ◆金3,070,000円 個人 57名 (累計金138,735,695円)
--	--	---	---	--

●入金額
(2012年8月1日～2012年10月31日)
【個人】10,235,000円(64名)
【法人】2,000,000円(2社) 【団体】52,748円(1団体)
【こうよう会】3,070,000円(57件)
●2012年度 寄付総額
(2012年4月1日～2012年10月31日)
【個人】35,271,000円 【法人】12,000,000円
【団体】383,215円 【こうよう会】47,064,000円

問い合わせ先
東京理科大学
専任事業事務室
(TEL) 03-5228-8723
(FAX) 03-3260-4363
(e-mail) bokin@gyo@admin.tus.ac.jp

Topics

天文研究部
オーストラリアでの
日食観測に成功

【本】学天文研究部は昨年11月14日(水)の早朝にオーストラリアおよび南半球で起こった皆既日食の観測のため、アマチュア観測隊を編成しオーストラリア・ケアンズへの遠征を行いました。

当日はあいにく日の出以降から太陽は全く見えませんでしたが、皆既の直前に奇跡的に晴れ、雲の演出により非常に印象的な日食となりました。同研究部はこの皆既日食撮影のほかに、「コロナ微細構造」、「偏光」、「フラッシュスペクトラム」など10項目の観測を実施し、この様子をUSTREAMで中継しました。

今回、観測隊の隊長を務めた天野拓実さん(理一・物理4年)は「『ケアンズの奇跡』と今後語り継がれるであろう劇的な日食を遠征した54人全員が経験することができました。今回の結果をしっかりとめ、次につなげたいと思います」と話しました。



撮影：天野拓実

山口東京理科大学ニュース

年頭の言葉

国際化の時代だからこそ
基礎学力と専門知識を
しっかり身に付け、
さらに視野を広げよう

学長 塚本恒世



昨年1年間を振り返ると、暗い話題が多い中、10月、京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞(人工多能性幹細胞)の開発で、ノーベル医学・生理学賞を受賞したことは、われわれ日本人にとって大きな誇りとなりました。現在研究に励んでいる学生諸君や、理系を目指す青少年にも勇気と希望を与え、これからの励みとなることでしょう。

さて、山口東京理科大学にも明るいニュースがありました。本学の学生フォーミュラチームが、第1号の小型レーシングカーを完成させ、昨年9月に静岡県で開催された第10回全日本学生フォーミュラ大会に初出場し、大いに健闘しました。

私も現場に駆けつけ、一緒に応援しましたが、学生たちが一つの目標に向かって全員で力を合わせ、真剣に取り組む姿に、心を揺り動かされました。マシンを完成させるのに何日も徹夜を続けたとも聞いています。大変な苦労であったと思いますが、何事にも代えがたい大きな財産になったはずです。本年はさらなる上位を目指し、がんばってほしいと願っています。

大学を取り巻く情勢は大きく変化し、日本の大学でもいよいよ秋入学が検討され始め、国際

化の波は避けられない状況です。また、日本企業もグローバル競争に打ち勝つため、性別・年齢・国籍を問わず、国内外から優秀人材を積極的に採用する動きが加速化し、企業内においてダイバーシティ(多様性)は、今後ますます進展します。コミュニケーション能力はもとより、さまざまな文化や価値観を受け入れ、柔軟に対応する能力も必要とされます。学生の皆さんは、本学でしっかりと基礎学力と専門知識を身に付け、さらに視野を広げるよう心掛けてください。本を読むことから幅広い教養を身に付け、各種のボランティア活動に参加することも大切です。

変化の激しい時代に、大学も教育観の手を緩めるわけにはいきません。文部科学省に申請した教職課程も認可される見通しで、教員志望の学生の要望に応えるべく、カリキュラムの充実を図っています。

本学のスローガンである“地域産業界のキーパーソン”を目指し、その先の国際社会でも通用する人間性豊かな科学技術者になってほしいと切に願っています。

関係各位には、引き続きご理解ご協力をお願いいたします。

諏訪東京理科大学ニュース

年頭の言葉

環境の変化に対応する
「適応力」を持った大学へ

学長 河村 洋



昨年、本学は4年制大学になってから10周年を迎えました。短期大学としての開設からは22周年になります。そこで、10周年の記念式典と短大以来の卒業生を迎えてのホームカミングデーを同時に開催しました。多くの卒業生の皆さんにお集まりいただき、また式典には法人塚本恒世理事長、理密会山田義幸会長、東京理科大学藤嶋昭学長をはじめ、地元自治体の市町村長のほか多数の地元関係者にも臨席いただいて大変盛大なものとなり、これからの10年に向かって元気の出るスタートを切ることができました。これに呼応するように、学生諸君も地元長野県で開催された技能五輪や、経産省が企画する社会人基礎力グランプリなど学外でも活躍し、優秀な成績を収めてくれました。

また、本学では昨年から大学院の博士後期課程(ドクターコース)がスタートしました。まず3人の入学者がいましたが、そのうちの1人は地元の社会人の方で、地域に根差した大学を目指す本学らしいドクターコースを構築しつつあります。

もう一つの大きな歩みとして、昨年から本学の改革に向けて準備を進めています。開学以来10年を経て、本学を取り巻く状況は大きく変わりつつあります。ダーウィンが言ったのではないかとされている言葉に、「生き残るは、最も強いものでも賢いものでもなく、変化に対応できるものである」というものがあります。また、宇宙飛行士の毛利衛氏も、自らの宇宙滞在の経験から人体の環境への適応力が非常に優れていることを実感して、宇宙から見れば極めて小さな生命体が地球上にこのように広く繁栄しているのは、先祖からのDNAを引き継ぎつつ変化する「適応力」のためであると言っています。本学も小さな規模の大学ですが、環境の変化に対応して自らを変革していくことによって、入学してきた学生諸君を立派に成長させて送り出すとともに、地域貢献の使命を果たすことを通じて、東京物理学校の建学の精神というDNAを引き継ぎつつ、東京理科大学の一員としての本学の役割をしっかりと果たせるよう、今年を変革の年としていきたいと思っています。



講演する藤嶋学長

軟式野球部東日本大会初出場ベスト8!!

軟式野球部は、昨年9月に行われた長野県大学軟式野球連盟秋季リーグ戦で準優勝し、11月12日(月)から東京で行われた「第33回東日本大学軟式野球選手権大会」に初出場しました。

初戦は新潟経営大学と対戦。0-1と1点リードされて迎えた四回表、1死一、二塁から、2点タイムリーで逆転に成功。その後も相手の失策などで追加点を重ね、4-1と初戦を白星

で飾り、ベスト8進出を決めました。ベスト4を懸けた準々決勝は、東京学芸大学と対戦。初回に5点を奪われましたが、その後は追加点を許さず。何度も反撃を試みましたが、

得点を奪うことができず、0-5で敗れました。残念ながらベスト4進出は果たせませんでした。今年夏に行われる全日本大学選手権大会への第一歩となったことは間違いありません。

理科教員のためのリカレント・セミナー(物理)を開催

昨年11月3日(土)、本学生涯学習センター主催の「理科教員のためのリカレント・セミナー(物理)」が開催され、県内外から中学・高校の理科教員14人が参加。「生徒を引き付ける物理教育のあり方考える」をテーマに物理の実験実習と講演を行いました。

午前中の実習は、金田和博准教授が講師を務め、「コンピュータ実験で示す物理現象」をテーマに、参加者全員がパソコンを使って、「放物運動」や「定常波」等の簡単な物理現象をシミュレーションするプログラムを作成しました。

午後からは、東京理科大学理学部第一部物理学の川村康文教授が講師を務め、身近にある材料を使って研究室で開発した実験教材「クリップモーターカー」と「かわむらゴマ」を作る実験が行われました。

川村教授は、独自の調査結果のデータを用いて、「小学生は化学や生物の分野は好きで、小学校での理科離れは、物理離れであることが分かった」と解説した上で、「中高生に対し、物理に興味を持たせるには、面白いと思わせる実験教材が必要不可欠である」と教材開発の重要性を強調しました。

講演では、参加者がグループに分かれて、ディスカ

ッションも行われ、発表の中で「結果だけを求めるのではなく、結果を導くまでのプロセスが重要であることを理解させるなければならない」「悩みや問題を共有したり解決するため、教員同士のネットワークを構築することが必要である」など、さまざまな意見が出されました。

川村教授も自身の主宰するネットワークを紹介し、「学校教育で物理を教えるのに必要な知識がどんどん生まれている。大学院で勉強するのの一つの方法であり、自己研さんに励んでほしい」と激励しました。



ホームカミングデー2012を開催

昨年11月25日(日)、ホームカミングデー2012が開催され、卒業生、学生、教職員、地域の方々など、約250人が参加しました。

塚本恒世学長および理密会の山田義幸会長のあいさつ後、東京理科大学理数教育研究センター長の

秋山仁教授による記念講演(演題:「才能は努力の後についてくる-Math Show&Mini Concert-」)が行われました。

秋山教授は、軽妙な語り口で、クイズを交えながら、算数や数学の魅力を残すことなく語り、聴講者は熱心に聞き入っていました。

このほか、サイエンスフェスタでは、子どもたちが科学の楽しい実験に夢中になって取り組んだり、卒業生のアルバム展示コーナーでは、卒業生同士で、旧交を温め、開学当初からの懐かしい写真の数々に話が弾んだようです。

また、11月中旬から開催した企画展「秋山仁の算数・数学おもしろランドinやまぐち」の会場には、多くの親子連れが来場。考案者の秋山教授が、五感を使って数学や算数を楽しむことを、実際に展示物に触れながら話し、会場は熱気に包まれていました。

「第50回技能五輪全国大会」出場

昨年10月26日(金)～29日(月)に開催された「第50回技能五輪全国大会」に本学から電子システム工学科4年の西村誠さんが「電子機器組立て」職種に出場しました。

この大会は電子回路の設計・解析、回路図作成や基板設計、組立て、測定、障害解析・修理や改修といった電子機器の設計・試作作業など多彩なスキルを競う競技です。2日間(10時間30分)にわたる長時間の競技の結果、おしくも入賞は逃しましたが企業の強豪選手を相

手に大いに健闘しました。また、西村さんは技能五輪長野大会で優秀な成績を収めたことで長野県職業能力開発協会から「長野県職業能力開発協会賞」を受賞しました。

卒業後は大学で学んだ知識や経験を生かし、ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)を運営するIT企業に就職する予定です。この大会に出場した経験を糧に西村さんのさらなる活躍を期待しています。

ホームカミングデー in 諏訪を開催

昨年10月20日(土)に理大祭と同時開催で諏訪東京理科大学創立10周年記念式典および「ホームカミングデー in 諏訪」が開催されました。

本学は、東京理科大学諏訪短期大学開学から数えて、本年度で24年目、4年制に改組転換してから12年目を迎え、この間、約5,600人の卒業生を輩出してきました。式典には、大学関係者と卒業生等のほか、来賓として諏訪地方6市町村の首長をはじめ商工会、高校関係者にも臨席いただき盛大に行われました。

記念講演では、共通教育センター篠原菊紀教授が「脳から見た“ほめる”“しかる”」というテーマで話し、卒業生にとっては、篠原節久

しぶりに聞くことになり、当時を懐かしんでいるようでした。

続いて行われた祝賀会では、懐かしい同窓生や恩師との再会など卒業生の楽しい歓談風景が随所に見られました。余興では、武田信玄が将兵の士気を鼓舞し、有利な戦いを展開したと伝えられる伝説芸能である御諏訪太鼓の演奏や江戸の中期ごろから慶應によくうたわれたと伝えられる威勢のいい木遣り、抽選会が行われ、大いに盛り上がりました。



Event

東京理科大学で開催されたイベントのニュースをお伝えします

葛飾区で科学の面白さを伝える
「みんなの理科大学」開催

昨年12月1日(土)と2日(日)にテクノプラザかつしか(葛飾区青戸)で、「みんなの理科大学」が開催されました。

これは平成25年度の葛飾キャンパスオープンに向け、地域貢献および区民と大学の交流、理解促進を目的として本学と葛飾区が共催したもので、小学生の親子を中心に両日で約1,500人が参加しました。4回目となる今回は科学体験教室、公開講座のほか、本学総合教育機構理数教育研究センター長の秋山仁教授、本学OBで書道家の武田双雲氏の講演会も開催。

「ハンマーで発電!？」の実験に参加した小

学1年生の女子児童は「ハンマーでたたいて電気がつくのが面白かった」と感想を語りました。



「秋のマドンナ」を開催 約60人が参加

昨年11月25日(日)に野田キャンパスで「『秋のマドンナ』ResearchからProfessionalへ」が開催されました。

このイベントは女子中高生に科学の魅力を体験的に知ってもらおうと講演会や交流会、実験を行うもので、女子中高生約60人が参加。

当日は、藤嶋昭学長による講演、本学女子学生と教員によるトークセッション、工学系と生物系の実験体験が行われました。トークセッションでは、理系に興味をもったきっかけや現在研究している分野などについての話に参加者は興味深く聞き入って



近代科学資料館企画展「宇宙実験展」を開催

昨年10月26日(金)～12月13日(木)に、近代科学資料館で宇宙実験の歴史、「きぼう」と「ISS」の模型、無重力環境に関する研究などを紹介する「宇宙実験展-日本実験棟「きぼう」でどんな実験がおこなわれているか」が開催され、期間中2,548人が訪れました。

10月28日(日)のホームカミングデーでは「『きぼう』はじめての科学実験」と題し、諏訪理大の河村洋学長による講演が行われ、15年間学生とともに準備した宇宙実験実現までの苦労などが話されました。また、理大祭中の11月24日(土)には

JAXA主任研究員の高沖宗夫氏による「重力と生物の格闘-生き物たちを宇宙に連れて行くのはなぜだろう」の講演が行われ、参加者からは「無重力環境における生物の影響について、とても興味を抱きました」などの感想が寄せられました。

学内外の最新研究成果を紹介
TUSフォーラム2012

昨年10月30日(火)にホテルメトロポリタンエドモント(千代田区飯田橋)で、「TUSフォーラム2012」が開催されました。本フォーラムは、「東京理科大学ならではの研究成果の紹介と、【科学・技術】界リーダーによる講演に対する意見交換を通じた産官学交流の場の提供を目的として開催され、多くの参加がありました。

当日は、学外から2012年日本国際賞を受賞されたインターメタリックス株式会社最高技術顧問佐川眞人氏、学内から藤嶋昭学長や2013年度「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞した総合研究機構の黒田

玲子教授など10人の方々から学内外の最新の研究成果が紹介され、藤嶋学長は講演の中で、「研究を進展させるには、広い教養を持つ、身の回りのことに関心を持つ、センスを磨くことが重要」と話しました。



講演する藤嶋学長



2輪ロードレースの世界最高峰で戦う「副社長」

中本修平さん (ホンダ・レーシング副社長、
レプソル・ホンダチーム代表)

勝負に勝つための最良の方法は、
勝つまで歩みを止めないこと。



中本修平 (なかもと・しゅうへい)
1957年、鳥取生まれ。1983年、東京理科大学理工学部機械工学科卒業。同年、本田技研工業に入社。ホンダ・レーシング (HRC) に配属される。以後17年間にわたって2輪レース部門の車体開発などに携わりプロジェクトリーダーを歴任、チームに数多くの勝利をもたらした。2000年、ホンダの第3期F1プロジェクトに参加、指揮を執る。現ホンダ・レーシング副社長兼レプソル・ホンダチーム代表。

「機械工学科の僕らの代の中で、僕はギリに近い成績で卒業したんです」。そう語りながら、いかにも愉快そうな笑い声を響かせる。2輪ロードレース世界選手権の最高峰「MotoGP」で、現在、チームタイトルとコンストラクター (製造者) タイトルを2年連続で獲得している「レプソル・ホンダ」チーム。その代表を務めるのが中本修平さんだ。

中本さんとバイクとの出会いは、高校時代のこと。「高校はバイクの免許を取ることも禁止だったんですけど、あるとき仲間に乗せてもらって、すぐに夢中になりました。親や学校に内緒で免許を取り、アルバイトでお金を貯めてバイクを買ったんです。家に置くわけにはいけないから、近所の図書館の駐輪場に停めさせてもらってました」

理科大卒業後は、本田技研工業に入社。ここでも、中本さんの型破りなエピソードが残されている。「実習期間を終えて、配属希望を聞かれたんです。すでに僕の配属先は『4輪開発センター』と決ま

っていたらしいんですが、僕は『2輪のレースがやりたい。できないならホンダを辞める』と、たんかを切った。もちろん辞めるつもりはなかったんですけど (笑)」

こうして2輪モータースポーツ専門会社ホンダ・レーシング (HRC) に配属され、以後17年間にわたって2輪レースの世界で着実に実績を積み重ねてきた。しかし2000年、中本さんは突然、4輪レースのF1行きを命じられる。いよいよ2輪の世界最高峰 (当時) であるGP500を担当できると思っていた矢先のことだった。

中本さんがF1での挑戦に取り組む中、2008年、リーマンショックに起因する業績悪化に伴い、ホンダはF1からの撤退を発表。その翌年、ホンダF1時代に開発されたマシンを引き継いで参戦したブラウンGPは第1戦で初出場、初優勝を遂げるなど快進撃を続け、最終的にはドライバーとコンストラクターのダブル・タイトルを獲得したのだ。何とも皮肉な結果だった。



2012年 MotoGP日本グランプリで優勝したベドロサ選手と喜び合う中本さん

「ブラウンGPが優勝したとき、前年まで一緒に働いていた仲間たちを含めて2,000通以上のメールが届いたんです。『勝てたのは中本のおかげだ』ってね。でも、僕にとっては何の意味もなかった……だって勝ったのはホンダじゃないんだから」

失意の中、08年12月にHRCに復帰した中本さんは、再び2輪の世界で勝つための組織づくりに着手。そしてレプソル・ホンダで、ついに世界の頂点を極める。度重なる困難の中、中本さんを支えてきたものは何だったのか。

「勝負に勝つための最良の方法は、勝つまで歩みを止めないこと。長いこと仕事をしていると“自分で自分をほめてやりたい”と思える瞬間を1度や2度は経験するんです。そしてそれが、今、自分ががんばれているかどうかの指標になる。他人の目をごまかすことはできても、自分を欺くことはできないでしょ？ だからがんばれるんです」

平成25年度から 学費の納入時期が 変更となります

在籍2年目以降の学費納入時期について、平成25年度から学部・大学院共に以下のとおり変更いたしますのでお知らせいたします。

前期分の学費について、本年度までは4月1日までに納入をお願いしていましたが、平成25年度から納入期日を4月30日に変更いたします。

今回の変更に伴い、振込依頼書 (前期分・後期分) の発送時期も4月上旬へと変更になります。

	納入期限 (※)	
	本年度まで	平成25年度以降
前期分学費	4月1日	4月30日
後期分学費	10月1日	10月1日 (変更なし)

※納入期限が金融機関休業日の場合には、翌営業日を期日といたします。

実験実習費の納入時期についても、以下のとおり変更いたします。

学部生の実験実習費 (年次実験費) について、本年度までは7月に学費とは別に振込依頼書を送付しておりましたが、平成25年度以降は原則として授業料と同時に請求を行います。請求にあたっては年額を分割し、前期分学費・後期分学費と同時に請求いたします。

対象者は東京理科大学2、3年進級者 (薬学部薬学科・経営学部は2～4年学年進級者) です。留年生 (原級生) は対象となりません。

大学院生の実験実習費については、前期に年額を一括請求しておりましたが、平成25年度以降は年額を分割し、前期分学費・後期分学費と同時に請求いたします。

なお、選択科目・卒業研究等を履修し、実験実習費の納入が別途必要な学生については、従来どおり7月と12月に振込依頼書を送付いたします。

「国家公務員採用総合職試験 合格を祝う会」を開催

平成24年度「国家公務員採用総合職試験合格を祝う会」が昨年11月28日 (水) に、神楽坂キャンパス1号館の記念講堂で行われました。会には藤嶋昭学長、澤芳昭常務理事、池北雅彦公務員対策委員会委員長のほか、多くの教職員が出席し、藤嶋学長から参加者24人 (合格者27人) に対し、奨学金目録 (表彰状および今年度授業料半期分相当額) が授与されました。

式典では、松本拓郎さん (理工研・応用生物博2年・文部科学省内定) が体験報告として、「学部から博士後期課程まで



の一貫した本学での研究活動等から得た経験と考察が、官庁訪問において省庁から高く評価された。また、本学の学生は学問的に厳しく鍛えられ、現在の行政の各分野に不足していると思われる科学技術についてしっかりと学んでいるため、行政のニーズにマッチしているのではないかと語りました。

また、表彰学生の代表として、梅山美智子さん (理一・物理4年・会計検査院内定) からは、「学生生活の中で人生を考える糧になるような体験を数多く経験できたことで、数ある進路の中から国家公務員を目指すようになった。国家公務員総合職試験に合格できるだけの十分な実力が付くよう、日々の授業の中で指導してくださった先生方や、対策講座、公務員ゼミ等の大学関係者のバックアップに感謝します。本学卒業生としての誇りを持って、日本に貢献していきたい」と意気込みが語られました。

本学では学年を問わず公務員志望者を支援しており、今年度の公務員試験に向け各種対策支援行事を実施しています。就職課 (就職支援室) では各種資料を豊富にそろえ随時相談に応じているので、今後、進路の選択肢として公務員を考える学生は積極的に活用してください。

総研・黒田玲子教授が 「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」受賞

本学総合研究機構黒田玲子教授が「ロレアル・ユネスコ女性科学賞」を受賞しました。この賞は、化粧品大手ロレアルと国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ) が科学の発展に多大な貢献をした女性科学者に贈るもので、日本人では4人目の受賞となります。

黒田教授は、自然界に広く現れる左右性現象への分子構造の左右性の関与を解明し、神経変性疾患を含む幅広い応用研究に貢献しました。

授賞式は3月にパリのユネスコ本部で開催されます。



シンガポール理窓会が設立

シンガポール在住の本学卒業生らを中心としたシンガポール理窓会が設立され、昨年12月2日 (日) に、その設立総会がシンガポール日本人会で開催され、会員30人のほか、来賓、理窓会本部役員など合わせて約60人の出席がありました。会長となった顔尚強氏は、

あいさつの中で「設立を機に、会員の絆を強くし、理科大の国際化に貢献したい」と話しました。

また、塚本恒世理事長、藤嶋昭学長による講演のあと、シンガポール日本文化協会名誉会長でもある顔尚強氏による特別講演が行われました。



入学試験中の 構内立入について

平成25年度東京理科大学各学部入学試験および大学入試センター試験の実施に伴い、試験を支障なく実施するため、試験場となる神楽坂校舎、九段校舎および野田校舎で、構内の立入制限が実施されますので、ご協力をお願いします。構内立入制限の場所・日時については、ホームページおよび学内掲示等にてご案内しています。

次号予告

- 葛飾キャンパス開設特集
- 2013年度入学式
- 新任教職員紹介

発行所

東京都新宿区神楽坂1-3
東京理科大学広報課
☎03-3260-4271
<http://www.tus.ac.jp/>